



施工
レポート

焼杉板と真壁漆喰塗りが印象的な木組みの戸建て住宅

建築設計：シティ環境建築設計／左官施工：左官吉田

はじめに

田畑の広がる神奈川県平塚市の郊外の集落に、焼杉板と真壁漆喰塗りの白壁がひととき目を引く戸建て住宅が現れる。シティ環境建築設計の高橋昌巳氏が設計した個人住宅だ。同社は「木組み土壁の家」をスタンダードとする設計事務所で、身近な自然素材である木、土、紙、石を使い、職人の伝統的な技術による家づくりを行ってきた。また、こうした都市郊外だけでなく、都心などの準防火地域に指定されている地域においても土壁と木組みの家の設計を行っている。

今回の物件は、親戚が住まなくなってしまった土地と建物を施主が譲り受け、新たに新築物件として自然素材の家を施工するというもの。ムクリのついた大きな三角屋根に真壁漆喰塗りの白壁、黒の焼杉板のモノトーン、天然木の木組みが色鮮やかな印象を与える洗練された外観デザインとなっている。

施工について

建物は、木造軸組工法に小舞下地を施工する伝統的工法。左官施工を担当するのは、シティ環境建築設計の左官仕事を数多く担当している左官吉田の吉田一正さんだ。今回の左官で使用する荒壁土は愛知県蒲郡の丸天建材より取り寄せた粘土質の山土、中塗り用の黄土は愛知県豊田市の村金工業のもの。漆喰は大分県津久見市の丸京石灰、塩焼きつくみ灰を使用する。



▲玄関入口正面には草庵茶室の壁にも用いられる投げツタ仕上げ